

昭和大学附属烏山病院だより

あおぞら

〔発行責任者〕病院長 岩波 明

〔編集責任者〕広報委員長 常岡 俊昭

〔住所〕〒157-8577 東京都世田谷区北烏山6-11-11

〔電話〕03-3300-5231(代表)

第172号

[2021年12月31日発]

第5回日本精神薬学総会・学術集会で優秀発表賞

病院薬剤学講座 助教 中野 裕佳子

このたび、第5回日本精神薬学会総会・学術集会（2021年8月21日～22日：WEB開催）において優秀発表賞を頂きましたので、この場をお借りしてご報告申し上げたいと思います。

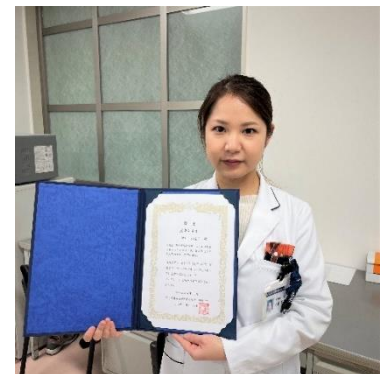
同学会は、精神科領域の薬物治療および向精神薬開発の進展を鑑み、精神領域における薬剤師の専門性を向上させ、精神薬学の進歩発展を図ることを目的に2016年に設立されました。今回の受賞は、昨年度の永井努助教（烏山病院薬剤師、薬学部病院薬剤学講座）の受賞に続き、2年連続となります。

今回は、「多変量解析を用いた心理教育プログラムを受けた統合失調症患者の再入院のリスク因子の検討」の発表が評価され、同賞に選定されました。

烏山病院では、統合失調症の入院患者さんに対して、全8回の心理教育プログラムを多職種で構築し、提供してきました。しかし、これらの心理教育を加えた標準治療を実施した患者さんにおいても、一定の患者さんは退院後早期に再入院となっています。そこで、本研究では、何らかの特異的な要因が関与していると考え、多変量解析を実施しました。その結果、再入院のリスク因子として、過去に入院回数が多いこととSAI-J（病識評価尺度）が低いことが関連要因として、抽出されました。今後は、SAI-Jを上昇させるような新たな心理教育プログラムを多職種と連携して構築したいと考えています。

本研究を進めるにあたり、直接ご指導していただきました杉沢諭助教（薬学部病院薬剤学講座）、栗原竜也准教授（薬学部臨床薬学講座天然医薬治療学部門）をはじめ、黒沢雅広准教授（薬学部病院薬剤学講座）、常岡俊昭講師（医学部精神医学講座）、稲本淳子教授（医学部精神医学講座）、岩波明病院長（烏山病院）と、本研究に携わっていただいた全ての先生方にこの場をお借りして心より厚く御礼申し上げます。

心理教育プログラムは現在、コロナの影響により、本来の多職種による提供が難しく、縮小した開催となっております。コロナが収束して多職種で提供できることを心待ちにしながら、今後も今回の受賞を励みにより一層臨床業務、研究活動に努力してまいります。



ASK 依存症予防教育アドバイザーの資格を取得しました

A4 病棟 看護師 塚越拓美

「ASK（アスク）」とは、アルコールをはじめとする依存性薬物の問題を予防し、早期に発見して治療や支援につなげ、回復を応援する社会づくりを目指して活動し続ける特定非営利活動法人です。

私が昨年10月に取得した「ASK 依存症予防教育アドバイザー」とは依存症について、「正しい知識」と「回復の実感」、予防に必須の「ライフスキル」を伝える専門家です。職種は問わず医療者や弁護士などの支援者、依存症当事者・家族など依存症という病気を理解し、回復について実感を持っていることが資格取得の条件になります。当院でも常岡医師、橘看護師が既に取得しています。

資格を取得するまでは依存症患者さんやご家族にお会いする時に「看護師の塚越です」と自己紹介をし、自助グループや家族会の説明をしていましたが、どうもしっくりきませんでした。「自助グループ担当の塚越です」も「依存症担当の塚越」も違います。そもそもどちらも「担当」ではないのです。私が勝手に名乗っているだけです。資格を取得した今では「依存症予防教育アドバイザーの塚越です」と堂々と自己紹介ができるようになりました。

「ASK 依存症予防教育アドバイザー」の取得資格である、依存症は回復ができる病であることを実感することができたのは、入院中の患者さんとの関わりの中だけではありませんでした。自助グループに参加し回復していくプロセスを見守らせて頂いたり、依存症から回復し支援者として一緒に治療に関わってくださる方々との出会いがあったからだと思います。

私が勤務している急性期病棟では入院が3ヶ月と期限が決まっています。依存症の回復には数年かかると言われています。そして、依存症患者さんは対人の病とも言われ、信頼関係を構築するのにも時間がかかります。ご家族も社会からの偏見を受けてきたことから医療者にも心を開くのに時間がかかります。どちらにしても、継続して関わる必要だと感じています。

私がこの資格を活かし実践していきたいことは病棟内の関わりだけではなく、退院後の外来受診時や病棟移動後も継続して支援をしていくことです。回復を信じる支援者が継続して関わることで患者さん、ご家族も安心して治療を継続することができたり、自身の回復を信じられるようになると考えています。退院先の支援者や移動先の病棟スタッフに情報提供をしたり、支援をバトンタッチすることができれば支援の輪も広がっていくでしょう。そして、治療の場面でも依存症患者さんへの偏見がまだまだ残っています。「だらしのない人になる病気」、「意思が弱いから再使用してしまう」などの声が聞こえてきます。それらの偏見を取り除く「正しい知識」を伝えることも大切な役割の一つです。私は言葉で教えることが苦手ですが、仲間と一緒に依存症治療を楽しんでいる姿を見て頂くことや、魅力溢れる依存症患者・回復者・支援者の方々へ繋げることはできると感じています。

「気軽に会える看護師」を目指して頑張ります。気になった方はぜひお声掛けください。よろしくお願い致します。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



ASKは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

私たちアドバイザーは、依存症の予防と回復を応援する社会をめざしています！

自己紹介

臨床薬理研究所の諸星北人です。私は、2017年より臨床薬理研究所に所属し、治験や臨床研究の仕事に携わっていましたが、2019年から2年間、海外に留学をしていました。留学先では患者情報のビッグデータを用いた解析を学べ、コロナ渦でありながら大変有意義な留学生活を過ごすことができました。留学に際しご尽力いただいた方々に、この場をかりて深く感謝申し上げます。

この度、スウェーデンへの留学を終え昭和大学に戻り、再びこの昭和大学附属烏山病院内で働けることを大変嬉しく思っております。外来や病棟にはなあなかないませんが、売店や食堂でお見かけした際は気軽にお声がけいただけると幸いです。趣味はアイスホッケーと食べることです。

ようやく落ち着いてきた印象もありますが、COVID-19の影響で仕事だけでなく日常生活においても実に大きな変化が生じた方が多いと思います。また、リモート・面会といった新たなことも一般的となりました。今後も治験や臨床研究が主な業務にはなりますが、自分にできることを考え、患者さんのためのより良い病院づくりのお手伝いを出来ればと存じます。今後とも、宜しくお願い致します。

臨床薬理研究所 講師 諸星 北人

お久しぶりです。専攻医2年目の花房慶太と申します。去年の4月から7月まで烏山病院の急性期病棟で研修をさせていただいた後、関連病院の昭和大学横浜市北部病院のメンタルケアセンターで急性期病棟と高齢者病棟で今年の9月まで研修をさせていただいておりました。現在は慢性期病棟のB3病棟で研修をさせていただいています。去年研修させていただいていた4ヶ月間は仕事を覚えることやこなす事に必死で目まぐるしく日々が過ぎていき、気づいたら異動になってしまいました。そのため、なかなか患者さん一人一人と向き合い話すことができなかつたのではとっております。1年目の時と違い、今回は身体的にも精神的にも少しは余裕を持って、病棟の患者さんと接することができるのではないかとっております。また、B3病棟では患者さんが退院後により良い生活を送ることを考えて退院調整を地域と連携をとりながら行っていくところは特徴的だと思っております勉強させていただきたいと思っております。現在は外来を持っていないため、皆様にお会いする機会はあまりないかもしれませんがよろしくお願ひいたします。

精神医学講座 助教(医科) 花房 慶太

デイケア活動 -ASD グループ編-

S.N さん

今月は ASD グループのプログラムについて紹介します。このプログラムは毎週木曜日の午前中に実施しています。メンバーは ASD（自閉スペクトラム症）と診断されており、人と話すことや気持ちのコントロール等を苦手としています。ASD グループではこのような方々が集まりデイケアスタッフと共に、社会で必要となる挨拶の仕方や会話、不安との付き合い方等に役立つ工夫や知識を考え共有しています。

また ASD の方の社会復帰を視野に入れたプログラム内容も含まれており、就職活動をするにあたって便利なサービスも教えてもらえます。

私はこのプログラムで、皆それぞれ個性的な考え方をして病気と折り合いをつけていることを知り、その工夫を教えてもらえることで、不安がやわらぐことを実感できました。

皆様も興味があればまずは主治医へご相談ください。



総合サポートセンター

～受診・入院のご相談～

受付：月曜日～金曜日・8時30分～17時

土曜日 8時30分～13時

電話：月曜日～金曜日 03-3300-5329

土曜日 03-3300-5231

◎初診受付：月曜日～土曜日・8時30分～11時

◎休診日：日曜日・本学創立記念日・年末年始

《12月》 入院(前月) 外来(前月)

◆延患者数 8,886(8,420) 5,803(5,655)

◇一日平均患者数 286.6(280.7) 241.8(245.9)

◆診療実日数 31(30) 24(23)

【編集後記】

新年あけましておめでとうございます。皆様お正月はいかがお過ごしでしたか？新年早々コロナウイルスの新たな変異種(オミクロン株)の感染者が急増し、不穏な空気が漂っています。

さて、そんな中で迎えた2022年ですが、暗いことばかりは言っていられませんが、新しい未来に向かって、何か目標は立てましたか？今年もコロナに負けずに元気に過ごしていきましょう！

(広報委員 熊谷)

広報委員会では、皆様のご意見ご感想をお待ちしております。連絡先は k-kouhou@ofc.showa-u.ac.jp となります。

